

【目的】 実生活における視対象の多くは色を含んでいる。本報告は視標の色の三属性（色相・明度・彩度）を変数に取り上げ、ランドル環の切れ目方向の判別によって測定した細部識別閾値や文書の読み易さに対する色の影響について検討する。

【方法】 実験視標の色相はJISで規定されている安全色の内の4色（7.5R, 2.5Y, 10G, 2.5PB）と無彩色とし、明度や彩度はL*a*b*表色系に基づいて設定する。文字部（ランドル環又は文字）と視標背景部はどちらか一方が無彩色で他方が有彩色になるように組み合わせる。文書視標は視角15度の範囲に適度な文字配列で明朝体を用いて天声人語を記述したものとし、文字寸法は3種類設定する。被験者は色覚正常な若齢者と高齢者各4名であり、全般拡散照明下（30,300,2000lx）に10分間順応した後、ある色条件の細部識別閾値をランドル環視力表を用いて測定し、さらに同条件の文書視標の読み易さについて評価する。

【結果】 視標の有彩色部分の彩度Cが増加し（ $\Delta C=25$ ）色差が増加しても細部識別閾値は殆ど変わらないが、読み易さ評価は条件によって影響を受ける（特に7.5R）。同一明度・彩度の視標で2000lxの環境下では色相が異なっても細部識別閾値に殆ど影響しないが、暗くなると特に7.5Rや2.5PBで細部識別閾値が変化する傾向が見られる。細部識別閾値に比べて読み易さ評価は色相の影響を受けやすく、2.5PBの評価が他の色相より高くなる場合が多く見られる。色条件と読み易さ評価の関係は、文字寸法より視標面照度の影響を受ける傾向が見られる。文字部と背景部のどちらが有彩色になるか、その組合せによって細部識別閾値や読み易さ評価に対する色の影響が異なる。